

## 平成25年度病害虫発生予報第9号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
きゅうり	べと病	やや少	並
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	やや少	やや少
	ミナミキイロアザミウマ	やや多	やや多
	コナジラミ類	やや少	やや少
トマト	黄化葉巻病	並	並
	コナジラミ類	やや少	やや少
	ハモグリバエ類	やや少	やや少
レタス	灰色かび病	並	並
	菌核病	並	並
たまねぎ	ネギアザミウマ	並	並
いちご (本圃)	うどんこ病	やや少	やや少
	灰色かび病	やや多	やや多
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	少	少
ブロッコリー	黒腐病	やや少	やや少
	べと病	やや多	やや多
	コナガ	並	並

【発生予報】 本文の( )内は平年値

## きゅうり

## 1. べと病

## (1) 予報内容

発生程度 並

## (2) 予報の根拠

ア 12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は0.3%(1.1%)、発生圃場率は、18.2%(22.0%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多い見込みであり、本病の発生に好適である。

## 2. うどんこ病

## (1) 予報内容

発生程度 並

## (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は3.8%(4.3%)、発生圃場率は45.5%(48.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。
- イ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

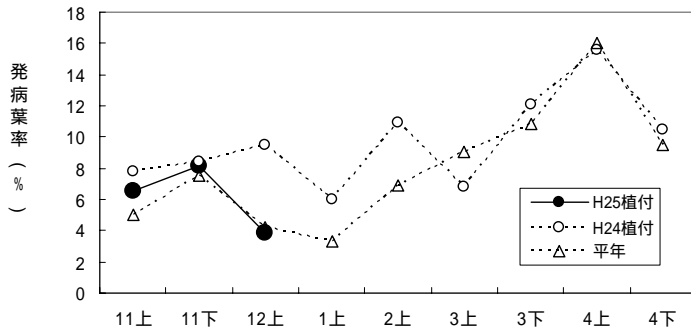


図 キュウリうどんこ病 発病葉率の推移

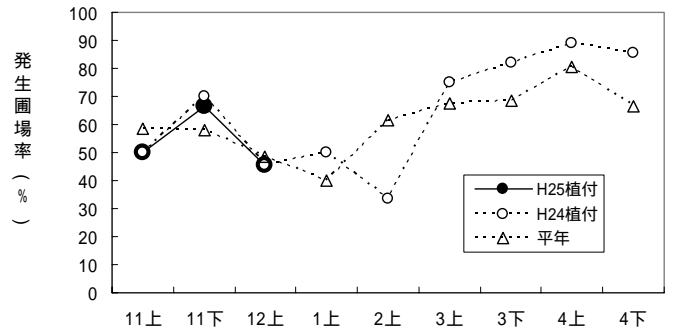


図 キュウリうどんこ病 発生圃場率の推移

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.6%、発生圃場率13.5%)。

4. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は3.0%(0.2%)、発生圃場率は18.2%(6.7%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ミナミキイロアザミウマは、吸汁により黄化えそ病を媒介する。薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤の連用はしない。

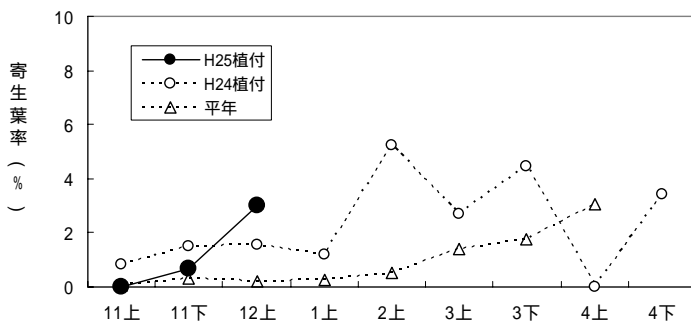


図 ミナミキイロアザミウマ寄生葉率の推移

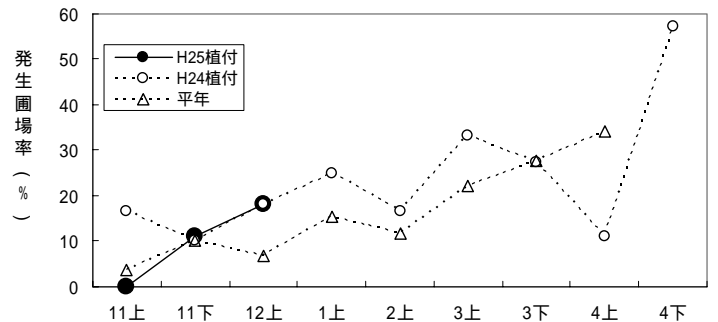


図 ミナミキイロアザミウマ発生圃場率の推移

## 5. コナジラミ類

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は0.4%(0.9%)、発生圃場率は27.3%(33.1%)であった。

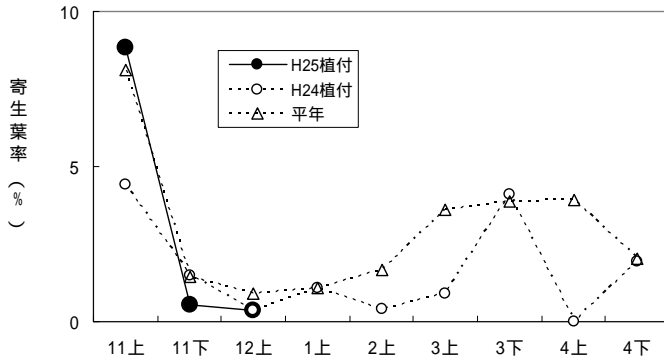


図 キュウリコナジラミ類 寄生葉率の推移

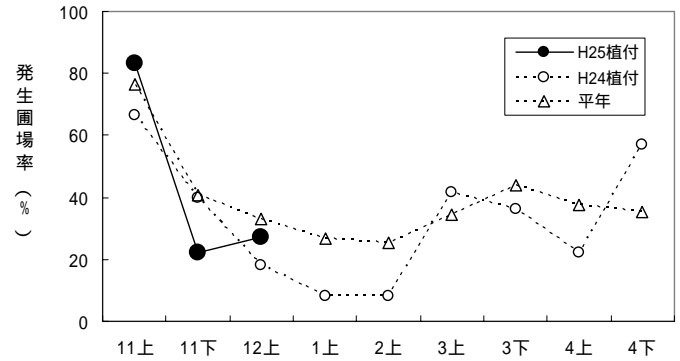


図 キュウリコナジラミ類 発生圃場率の推移

## トマト

### 1. 黄化葉巻病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.3%(過去9カ年平均0.5%)、発生圃場率は25.0%(過去9カ年平均19.5%)であった。

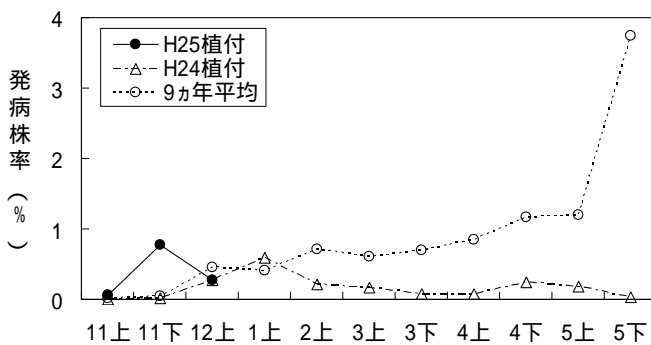


図 トマト 黄化葉巻病 発病株率の推移

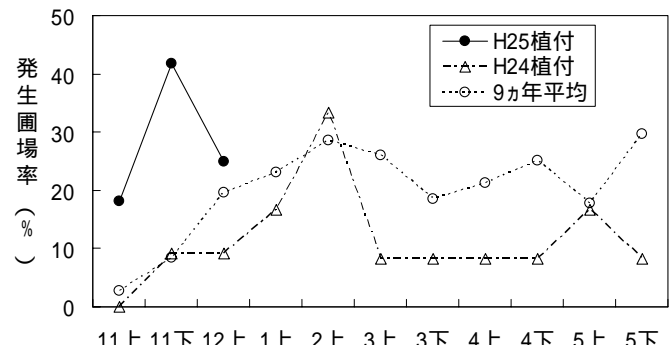


図 トマト 黄化葉巻病 発生圃場率の推移

### 2. コナジラミ類

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.2%(寄生株率1.3%)、発生圃場率は16.7%(24.2%)であった。

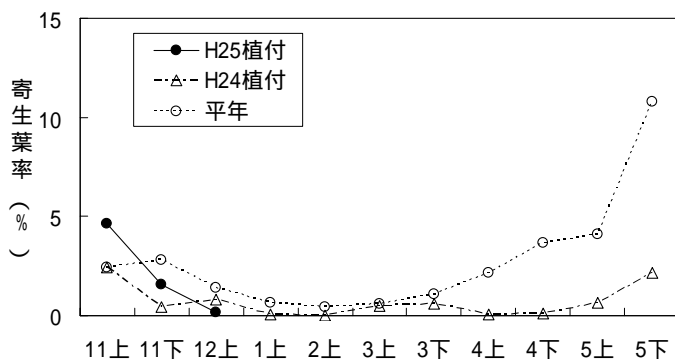


図 トマトコナジラミ類 寄生複葉率の推移(巡回調査)

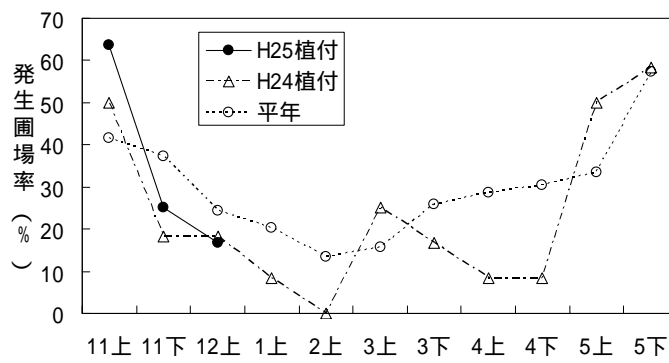


図 トマトコナジラミ類 発生圃場率の推移(巡回調査)

### 3. ハモグリバエ類

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、被害葉率は0.4%(1.3%)、発生圃場率は8.3%(26.9%)であった。

## レタス

### 1. 灰色かび病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.7%)。

### 2. 菌核病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発病株率は0.3%(0.2%)、発生圃場率は13.3%(25.0%)であった。

## たまねぎ

### 1. ネギアザミウマ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(14筆)の結果、寄生株率は11.7%(7.6%)、発生圃場率は57.1%(50.0%)であった。

# いちご

## 1. うどんこ病

### (1) 予報内容

発生程度 やや少

### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、葉での発生を認めなかった(発病株率0.3%、発生圃場率4.6%)。また、果実での発生も認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.9%)。

## 2. 灰色かび病

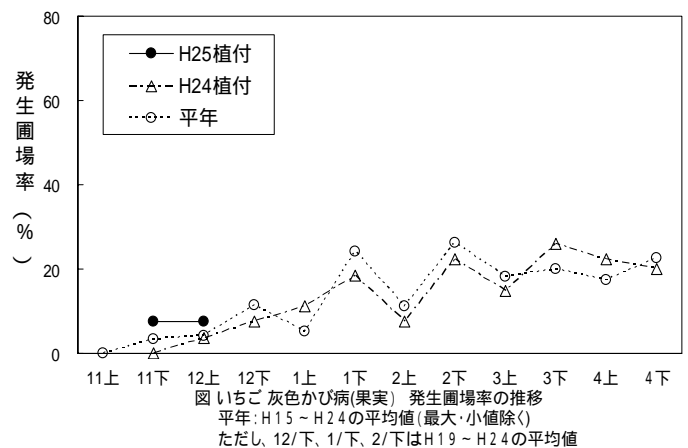
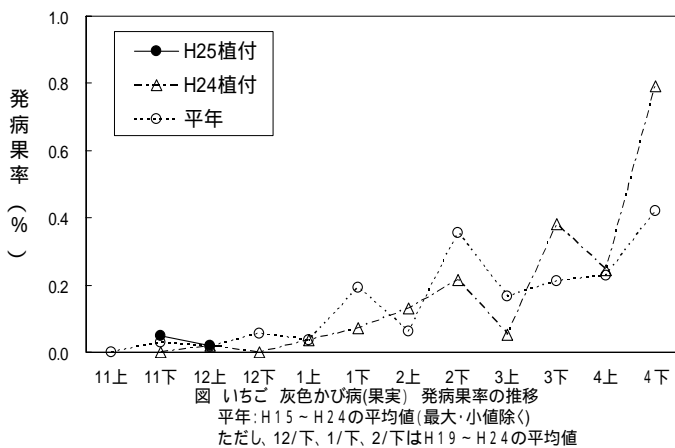
### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

ア 12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は7.4%(4.2%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は少ない見込みであり、本病の発生に好適である。



### (3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스内が多湿にならないように、晴天時にはできるだけ換気を行う。
- イ 被害果等の発病部位は伝染源となるので、早期に取り除き適正に処分する。
- ウ 窒素過多にならないよう、適正な施肥管理に努める。
- エ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

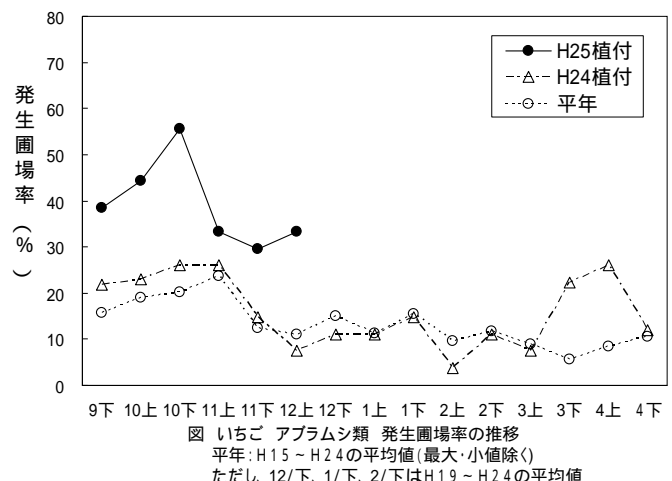
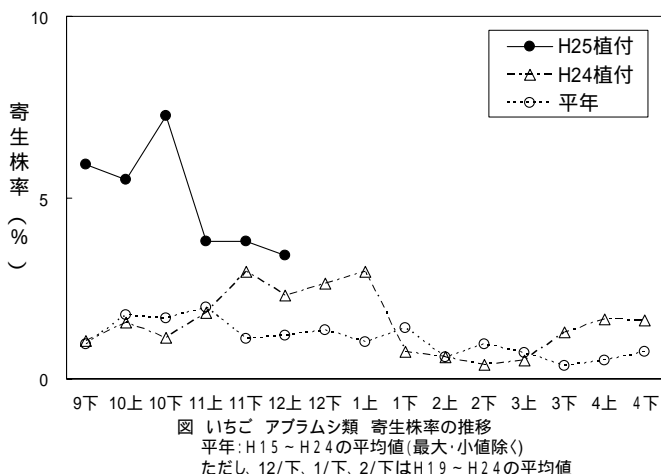
## 3. アブラムシ類

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は3.4%(1.2%)、発生圃場率は33.3%(11.1%)であった。



(3) 防除上注意すべき事項

- ア 花のがくに寄生しやすいので、発生を認めたら初期のうちに防除を行う。
- イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.2%(3.0%)、発生圃場率は7.4%(23.6%)であった。

**ブロッコリー**

1. 黒腐病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.2%(過去6カ年平均4.3%)、発生圃場率は8.3%(同11.6%)であった。

2. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.3%(過去6カ年平均0.1%)、発生圃場率は16.7%(同1.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の排水を良くするとともに、窒素過多にならないよう適正な施肥管理に努める。
- イ 花蕾への感染を回避するため、出蕾前に予防的に薬剤防除を行う。
- ウ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。
- エ 被害残さは放置せずに抜き取り適正に処分する。

3. コナガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

12月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は5.7%(過去6カ年平均7.8%)、発生圃場率は50.0%(同44.8%)であった。

【参考】  
気象

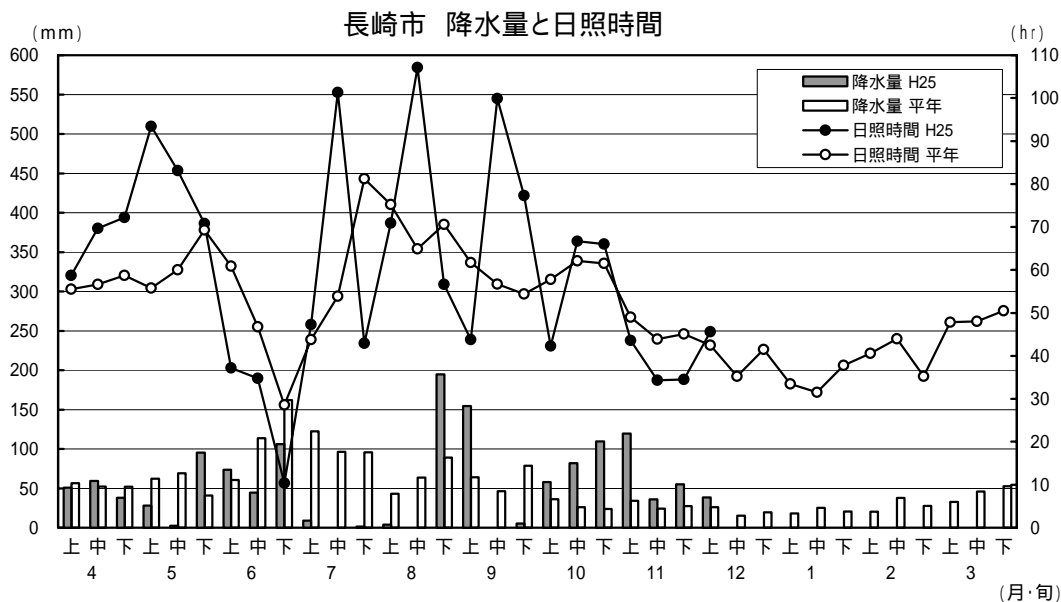
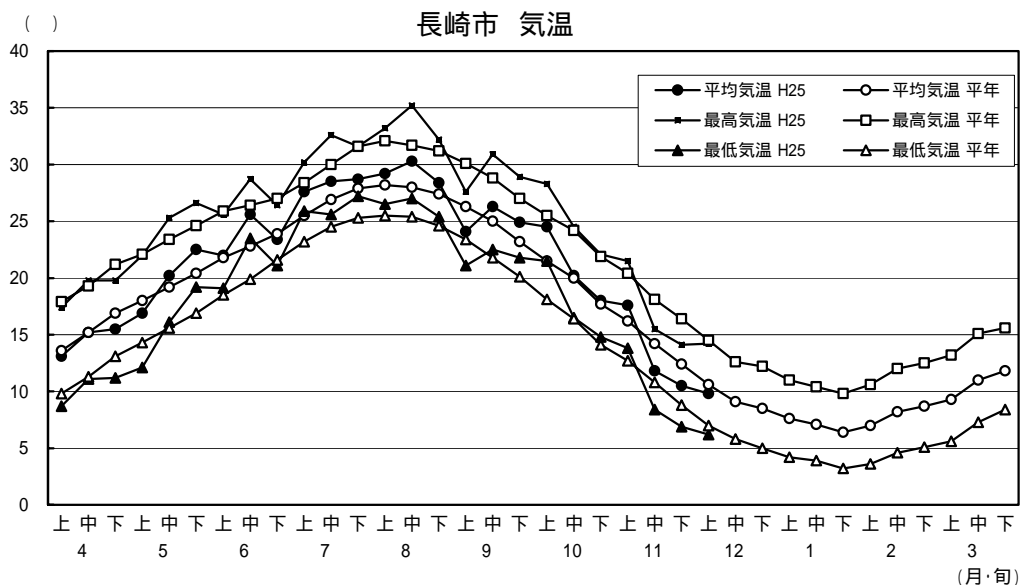
(平成25年12月13日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	40	40	20
降水量	20	40	40
日照時間	40	30	30

予報対象地域：九州北部地域

平成25年度の気象経過 (長崎海洋气象台)



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病虫害防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>  
この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027